



駿臺雜話

信集



15
1205
5止



月 15
第 1205
巻 5

駿其公雜話卷五目錄

信集

月々世々此形見
遍照の星々々々
詩文此評只
六義乃沙汰
多錢其賈
曇陽大師
言ハ身此文
心物人と福凡

島田藏書

離騷の秘事
世々々々身々々々
倭歌ニ感興の益あり
作文と讀書ニわら
文章此盛衰
寸鉄人々乃凡
一日此澤
年々々々々々

後... 巻五

見よそら世くさるぬ。其後迄とまらぬ。ゆゑに音もせむらら
 其は孫高維の文覺といひ。豪猛を極此の俗。謙金此指と
 加す。秋門は威と振ひ。あり。えと。なると。改め。と。と。お
 ち。と。一。西り。あひ。まは。まの。わ。を。尊。し。めん。や。い。ひ。威。威
 あり。を。雄。と。ま。ま。や。り。ら。し。し。け。け。行。な。文。を。ま。宿。と。そ。か。し
 少。文。を。孝。と。し。他。し。ひ。く。其。佐。才。の。い。け。け。の。ゆ。ら。ん。西。り
 足。の。り。ま。に。お。ん。そ。奉。と。抑。と。け。け。行。な。才。子。と。奉
 お。身。の。ま。ま。や。ゆ。し。を。思。ひ。ふ。文。を。あ。り。と。一。目。及。て。お。お
 奪。と。ま。ま。と。と。不。法。と。ま。ま。後。日。は。才。子。と。何。と。と。云。云
 ち。の。然。ら。ば。と。い。け。け。の。い。ま。ま。文。を。彼。に。け。け。あ。ま。う。め。ま。ん。我。と

う。の。面。さ。の。の。の。と。い。ひ。け。け。の。等。あ。く。其。人。と。高。勝。は
 して。氣。魄。精。神。あ。く。や。ま。わ。ら。さ。け。ま。と。知。ら。く。多。く。情。け。ま
 け。儒。乃。世。の。の。を。ま。ま。ら。ぬ。か。中。此。人。お。ま。ま。も。真。此。道。と。ま。ま。ん
 其。竹。貝。此。言。明。か。ぬ。ま。た。た。世。の。い。と。い。く。浮。屠。の。ゆ。ま。ら。し。や。け。け
 一。は。世。但。者。と。す。て。親。遠。す。て。佛。よ。ゆ。て。我。身。の。ま。ま。の。改。め。ま。け
 せ。く。と。と。や。ら。世。は。捨。ま。と。も。其。ん。と。若。く。之。父。と。く。も。身。と。た
 す。く。ゆ。ま。く。わ。ら。ら。ち。身。と。捨。す。て。は。世。と。す。ん。と。う。の。い。世。の
 あ。ま。ま。名。利。と。神。ふ。も。世。と。す。て。捨。棄。と。神。ふ。も。清。濁。ハ。か。ま。ま。と。身
 の。樂。と。因。り。の。い。の。ゆ。ま。ま。の。仙。の。教。と。人。倫。と。修。と。見。ま
 八。君。又。と。す。け。け。と。う。と。ま。わ。ら。は。け。け。あ。く。も。捨。ま。や。ら。ら。ん。八。身

一よ此樂とてあつたすは極名利の事なり。世と此
 うのちも及そ名教中よ自其樂地あるべし。何ぞ必しも人
 倫とすと。事物と離るる人倫とすと。事物と離るる已
 げ生極樂と極うから世とすたれといふ。いふは言ふことありて
 証す。樂欲をいふもいふ也。或人憐るる。郷里
 よ此をいふ婦人あり。夫よあるをく日暮哀慕し。此婦も欲
 ぬはかてにたし。其子婦く憂る。いふは言ふことありて
 二。月経佛法とてき貴。子孫傳はあり。婦人よいひければ。夫
 ぬあつたす中。そまらば佛法は妨げとす。いふは言ふことありて
 男女の道も。此もいふ。頼りたるをぬはつて。衆所共

ふあよかして。かぎりむんぬが。もまら。いひければ。是れ欲は
 あらひ中。た罪障と増長す。そのは言ふことありて分別して
 たりきく。よわい。いふは言ふことありて。婦人忽ち成す。いふは
 言ふことありて。いふは言ふことありて。いふは言ふことありて。い
 八。穢かしあつたす。其身も即ちあつたす。いふは言ふことありて。い
 若よと。いふは言ふことありて。人貴賤男女とて。いふは言ふことありて。い
 よと。起らぬ。いふは言ふことありて。いふは言ふことありて。い
 わる人材と。いふは言ふことありて。既よ。いふは言ふことありて。い
 とも。わら。いふは言ふことありて。いふは言ふことありて。い

宇宙依然百代流。道喪文弊思悠々。誰知天上孤輪月。長

照人間萬古愁

詩書道廢共誰陳。邪說紛々日競新。明月似知千載恨。慙慙來照白頭人。

翁自之の詩を讀みてはすこぶる感ず。法も亦傳へては子。月爲河傾く。兼も既もあけられぬ。各いふ事てあはぬ。詩文の評只

他日錢く法も亦會せり。各疑同本流く。詩文の終はたふ。いほよも翁よじく。詩文の學問の作事なるは。急務中ら代る。や。是も藝に遊み類を中らる。さ。六公。其れは終る。あやう。ハ翁先詩れ本と論して。法々。之。百。爲。は。こ。う。終。す。は。よ

及之。漢魏以後の詩も。文法悠暢。意思淵永ありて。風雅此意と先をとりし事。蕭統の文選よのすれ。古詩十九首。も爲く樂府歌のの詩とよまむ。知らる。志すは。六。初。は。也。倚靡とき。浮華をば。あ。へ。凡。雅。此。體。と。い。は。れ。ひ。は。あ。り。唐。貞。観。李。杜。と。猛。い。は。れ。そ。六。初。の。作。事。と。一。流。く。ち。は。古。風。と。振。興。せ。し。も。今。ま。も。詩。と。も。あ。り。と。唐。詩。と。も。あ。り。と。盛。唐。は。詩。と。古。と。さ。ら。事。遠。く。や。り。と。中。風。系。と。も。人。情。と。あ。り。と。あ。は。れ。凡。雅。此。義。膏。刻。積。あ。り。と。あ。は。れ。け。し。と。人。を。感。ず。る。其。妙。の。ま。は。さ。は。此。性。情。と。吟。詠。す。る。と。唐。詩。と。捨。つ。る。も。の。よ。は。ら。事。此。司。馬。温。公。杜。甫。國。破。山。河。在。城。春。草。木。深。感。時。花。濺。淚。恨。別。鳥。驚。心。と。い。詩

と務めて、古人に詩と意在言外と貴く、山河を去ると六竹を
 かりき事ありし草木深とて佳人の事去る人、必る事
 平時候に事ありて、その事なくはる、厚く此の詩を
 時流離の情、とていふて、志まはる。又此王荅の唐詩と論
 や、風凡俗衣燕、碩人素離等此篇、けいも言外空窮
 の感あり、後世も唐人のけいもけいも、溪水悠々春自来
 中、之は、懐友と、いふも、懐友の志を、外は、溢る、潮打、空城
 寂寞回とのけいも、息亡と、いふも、息亡此感言外は、溢る、凡人
 此體と、得る、事、いふ、けいも、此詩、ゆる、其、此と、得る、事
 中、之、けいも、是、中、唐詩の、妙と、ま、ま、李太白の大原早

秋之賦、霜威出塞早、雲色渡河秋、夢繞邊城月、心
 飛故國梅、と、いふ、類此詩々、雄壯此氣と、いふ、後、ま、ま、杜
 甫、江亭と、賦、いふ、水流、不競、雲在意、俱遲、寂々、春將晚
 欣々物、自私、と、いふ、類此詩々、深遠の、と、いふ、後、ま、ま、
 了、其、外、王淮、月落江湖白、湖來天地青、と、いふ、杜甫、吳楚
 東南折、乾坤日夜浮、と、いふ、孟浩然、微雲渡河漢、踈雨滴
 梧桐、と、いふ、柳宗元、壁空殘月、曙門掩候、與秋、と、いふ、
 雅の、詞、と、いふ、不群の、思、と、いふ、後、ま、ま、宋人の、いふ、けいも、秋、の、
 多、と、いふ、事、と、いふ、目、ま、ま、あ、あ、と、いふ、事、ま、ま、あ、あ、と、いふ、
 や、いふ、事、ま、ま、あ、あ、と、いふ、事、ま、ま、あ、あ、と、いふ、事、ま、ま、あ、あ、と、いふ、
 杜甫

かろく け歌と吟すす 有法其 奇辨^{にん}の徹と感すし。

世中よさらぬら。其れは。これ。わ。世の。い。人の。其。あ。

け歌と吟すすは。孝子其。親の。情と感すし。

風よけた。真は。い。あ。た。山。若。守。あ。君。う。う。り。ん。

け歌と吟すす。貞婦。其。史の。情と感すし。

志とく。い。あ。さ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

け歌と吟すす。君子。不。志。故。其。情と感すし。

も。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

な。う。に。中。は。常。に。好。く。い。言。う。首。お。よ。深。念。に。代。實。朝。の。

歌。

(Faint vertical text or bleed-through)

武。其。笑。あ。い。は。く。は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

け。あ。と。言。あ。と。評。し。く。鬼^{たま}と。と。の。体。を。い。と。あ。あ。あ。あ。あ。

勞。は。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

多。く。入。常。よ。い。ま。と。た。せ。ん。の。事。草。を。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

て。勞。勤。を。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

の。月。も。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

や。け。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

つ。ひ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

久。う。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

取てしやといふ。後漢書と云ふ。詩に義。詩今
集此序よりいへば、此詩中ら。大意、
凡雅頌賦比興と云ふ。義中凡風と云ふ。凡男女各已
情と云ふ。此詩、國々、其凡體、
八朝廷の云卿大夫以下。已情と云ふ。詩、聲、
中、雅といふ。宗廟、
詩、六頌、
物の多くわあ。あ、
た、
よ、

中、
ま、
卷、
ハ、
宮、
婦、
ま、
真、
と、
福、

義まきく倭歌と稱するも万葉集よのまに同じのまにゆゑに
 多しと其界古今下代への流多しと轡轂まんとくのとてけに傳ゆるを推と
 二八ケミヤヒ同秀桑門に作又と茲新教傳此ありまを推しといへん
 神後慶賀にちやうと其をゆゑ頌よまといふまをもそ又宗
 廟樂に於てまあわたり其體又別かるといふは詠の六倭歌よ
 べきまよくわなすすいふまを倭歌の部立とせむまは
 法具のま倭歌の體よりいへばまはまは世傳らんまをま
 代集に歌たるまに風景まに傳まるといふは眞すかと稀
 まも二八八九を稱すいへば中まは眞體もまをいへんまは
 仁德帝に御即位せすまを

流波傳よまは此まあゆらるるまはまをまはとまはま
 此まはとまは此まは此まはまをまはまはまはまはまは
 まをまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 大をまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 ともまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 此まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 頭のとまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 是まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

其書又必ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララ
他ノ書ヨ。古詩ヲ吟詠シテモ襟懐ヲ喜ムルノ事ハ是れ也。然レテ文
章ハヨクシテ多クハ必ク一也。今聖賢ノ書ヨモ中ノ文辭ガ
尤モシク求ル事ヤ。其ハ文辭ノハヨクシテ一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ

其書又必ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ
其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ其書ハ必一と自ララヨシヤク及シテ

章法句法抑揚頓挫やまやらの沙汰を粗熟して後此中が長
び孫莘老歐陽公と相識する久し。或時交向して文字の
とく同様に歐公此に云く他文無他術唯讀書多則爲之自正世人
之患在懶讀書又作文字少每篇出即求過人如無少有不至者
疵病不必待人指摘又作自能見之翁おとせり。歐陽公此言平
實ありて味わす文章を學ぶやあまをそとにたす。後此翁存の
文章よこを引て。何とぞ捷徑をわんごうして後く爲求し。後此文
と學ぶや別は悟るは法す。多く讀書よわす。歐陽公此言我を欺
るより才を乏ぬ。歐陽公古今文章此大家として其言ののこ。其
上古人の爲るに於て。何とぞのあまをそとにたす。あまをそとにた

是よ遊するにけしは。何法やまをそとにたす。又韓退之の答李翱
書。椰子厚笞書中五書。并は。韓老泉の上。歐陽内翰書とて。よく
知得たる。之を。何とぞも初より著他書を。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。
と物とせあるに。あまをそとにたす。六韓柳歐蘇。之文章よ。あまをそとにたす。天授此
材とて。あまをそとにたす。讀書よ。あまをそとにたす。今吾黨の。文章。文
辭と。あまをそとにたす。あまをそとにたす。あまをそとにたす。あまをそとにたす。
は。辭と。あまをそとにたす。あまをそとにたす。あまをそとにたす。あまをそとにたす。
ひ。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。
常。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。後此翁。

後此翁 卷之三十五

六

よ答を書よといふも。然書と首なり。一太史公は。以て。二子。法を
も。固固以て。取す。や。原を。と。ん。く。ん。だ。一。韓。退。之。答。李。翱
書よ。二。代。支。漢。の。書。や。わ。く。さ。六。載。く。よ。あ。ん。と。わ。く。六。西。漢。書。と。ハ
す。て。さ。し。じ。也。歐。陽。東。坡。や。す。序。か。く。也。然。書。此。人。中。わ。く。六。古。今。此
書。に。よ。ま。ら。ハ。す。る。ゆ。也。歐。陽。韓。文。と。ま。り。東。坡。の。ま。り。と。ま。り
ふ。と。い。ふ。も。多。辯。此。四。は。ま。り。と。ま。り。性。の。ち。き。ま。ら。ず。入。す。る
而。あ。り。ま。り。と。い。ふ。も。也。南。豊。陳。無。已。伯。夷。傳。と。書。く。よ。も。勝
け。た。よ。ま。り。と。ま。り。文。法。と。ま。り。と。ま。り。古。人。多。く。か。く。の。よ。り。今
伯。夷。傳。の。ま。り。と。ま。り。人。多。く。ま。り。久。く。文。法。と。書。く。也。書。と。ま。り
歸。化。の。人。并。り。代。來。之。論。ゆ。め。る。に。東。坡。穎。濱。と。ま。り。ま。り。父。老。泉

か。よ。ま。り。常。よ。一。書。と。松。中。も。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。秘。々。足
せ。や。う。と。父。の。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
け。た。や。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
老。泉。の。批。と。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
さ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
と。書。く。格。个。と。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
仲。若。孫。と。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
書。や。く。も。春。快。活。繁。や。て。吾。徒。此。材。力。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り。あ。り。ま。り
く。老。莊。屈。宋。之。他。淮南。荀。卿。の。書。さ。り。ま。り。立。明。の。國。語。た。他。司。馬

後漢書卷之五

五

古の文は 剽竊とやまふ。その下の。五下此文章科 卷帖括のあり。落く。とや耐文とやまふ。片古文とやまふ。さらさら。にやるとある。けし。古く古文を志わぬ人。世に業あり。復古矯俗。急や。韓柳歐蘇。文とやまふ。赤熾とせし。一篇とやまふ。掬揚。句ある。片。藤せし。やまふ。古。わきと材織とせし。温畜深。さらさら。と。その。下。此文とやまふ。古。終。古。わぬ。雅。又。似。雅。わぬ。最。後。李。襲。龍。王。世。貞。お。く。その。平易。お。く。膚。作。や。ち。き。厭。く。相。告。奇。怪。此文と造他。相。處。此。論。と。誇。張。し。洗。洋。自。恣。し。一。世。と。鼓。動。せし。六。四。此文と。靡。御。し。く。依。せし。浮。號。し。文。喜。此。と。盟。と。稱。し。き。六。滄。溟。鳳。列。も。常。に。韓。柳。歐。蘇。の。文。を。

標。衣。飾。して。終。は。非。歟。す。れ。す。と。き。は。鳳。列。と。晚。き。は。ほ。く。文。友。と。文。と。稱。し。く。や。後。悔。し。く。お。お。し。く。の。志。わ。く。く。も。及。は。さ。を。い。れ。よ。錢。謙。益。の。列。朝。詩。集。は。凡。く。と。是。に。依。る。者。の。今。文。を。と。く。自。ら。作。る。人。の。王。氏。の。集。解。と。拾。く。彼。の。四。部。稿。と。解。紐。や。す。と。今。文。は。又。鳳。列。の。な。た。り。ひ。く。及。く。韓。歐。と。毀。る。一。や。い。と。そ。持。つ。る。も。定。く。や。く。ゆ。き。を。と。わ。ぬ。お。わ。ぬ。お。わ。ぬ。お。わ。ぬ。お。見。や。く。志。を。ま。ま。わ。ぬ。

目雲陽大所

今。文。お。と。朝。も。す。す。お。く。お。く。お。く。一。義。理。の。大。筋。と。き。く。あ。き。ま。の。お。く。お。く。あ。き。ま。と。し。き。と。今。世。此。儒。者。き。く。お。く。

義理をなすのやわれ初るる事なきは、さあや、胡笳の如く
われらるる世に、世に、^{キコト} 鉅儒と稱す人の中も、義理の筋とらき人も
凡そ、孔子も、君子を義に爲質と爲すべく、孔子の
の上を、^{キコト} 作らば、すくよ、後代の事、義理と質とせらるるは、
いんや、文章の質と、その文が、^{キコト} 義理を、^{キコト} 作らば、^{キコト} 浮靡
に、雑少く、文章、^{キコト} 作らば、^{キコト} 韓柳、^{キコト} 歐、^{キコト} 蕪の、^{キコト} 中人、^{キコト} 作らば、
文章、^{キコト} 中の人、^{キコト} 作らば、^{キコト} 深き、^{キコト} 作らば、^{キコト} 人、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、
も、^{キコト} 義理の、^{キコト} 筋と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 韓、^{キコト} 歐と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、
一代の、^{キコト} 父、^{キコト} 多、^{キコト} 作らば、^{キコト} 柳、^{キコト} 蕪と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 叙、^{キコト} 文、^{キコト} 浸、^{キコト} 濁、^{キコト} 作らば、
と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 柳と、^{キコト} 叙、^{キコト} 文、^{キコト} 浸、^{キコト} 濁、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、

義理をなすのやわれ初るる事なきは、さあや、胡笳の如く
われらるる世に、世に、^{キコト} 鉅儒と稱す人の中も、義理の筋とらき人も
凡そ、孔子も、君子を義に爲質と爲すべく、孔子の
の上を、^{キコト} 作らば、すくよ、後代の事、義理と質とせらるるは、
いんや、文章の質と、その文が、^{キコト} 義理を、^{キコト} 作らば、^{キコト} 浮靡
に、雑少く、文章、^{キコト} 作らば、^{キコト} 韓柳、^{キコト} 歐、^{キコト} 蕪の、^{キコト} 中人、^{キコト} 作らば、
文章、^{キコト} 中の人、^{キコト} 作らば、^{キコト} 深き、^{キコト} 作らば、^{キコト} 人、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、
も、^{キコト} 義理の、^{キコト} 筋と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 韓、^{キコト} 歐と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、
一代の、^{キコト} 父、^{キコト} 多、^{キコト} 作らば、^{キコト} 柳、^{キコト} 蕪と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 叙、^{キコト} 文、^{キコト} 浸、^{キコト} 濁、^{キコト} 作らば、
と、^{キコト} 作らば、^{キコト} 柳と、^{キコト} 叙、^{キコト} 文、^{キコト} 浸、^{キコト} 濁、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、^{キコト} 作らば、

あく。夏も義行志多あけ人々をくつらばあふ多て文章家義行
 一筆はくきすとて今この大概とては作れ也。二子莫逆乃
 交せり。月夜徴逐して詞賦とて相誇ふ。中原二子とて自
 うら幹とておの願ね志離くもてをば。かく経かじて風列
 父王恃^そ怨^を友はあや証^を死せり。下獄論死せり。は風列
 弟世懋^と同く棄官^を長安を去り。父の死に代らんとてひ
 ごとくかや序とてし。是に號泣^を枕^をとて歸葬^せは
 高き六さん^の卒^をも若くもあはれいとてし。くもてりる
 不^をまよ^かりてはい^をまよ^かりては滄溟もは病中^を暴卒^せり。六
 浪笑^の友もやう^をもてり。志氣沮喪^をせり。故態^を

妻く秋氏^の帰依^を伽藍と建立し。又弁^を列此園とてく。月
 夜賓客と其中に宴遊し。歳月と改喝^をけり。あはれもてわ
 ちし^を六社友^と錫爵^の女は丘尼とてり。性^を澄教^門とてり。と
 風列とてり。其尼とてり。曇陽大師と號し。錫
 爵と同く法廬戒食し。もとて賓客と謝し。筆礎とやき
 胡夕梵誦とてり。勤めけり。希有なれり。あはれもてり
 も多し。やうとてり。高好とてり。又かく諸人酒客
 の圃^をあやひ^をけり。経^をやうとてり。名^ををく風列とてり。爲
 人と考^を病^を相喪^の人^を似^をり。物も博聞^を宏詞^名とて稿^む
 により。同俗^を汚衆^と収^り多^きあはれ。其附^をあやひ^をて地^を

之者。海内人物と鼓動せしむるは。仁に長知れ
況んや。天下を傾けし。海をきこく。ねむりてや。世の論者
陽明と並行して一代の盛事を。我々がく明初より
今に至るまで。義理の字を陽明より。文章此字の風列
の全。但良紙は内崔存。此更に條く。儒者介内の事
と離る。風列より。名檢といひ規矩と破る。多々文雅風
流とく。字とすと。その害晋の流。於に似くや。成あり。まの
とい也。今世の儒と稱しては。孔子を稱すと。や。客たる
は。し。く。て。し。し。道。よ。志。や。も。二。百。載。の。下。風。列。の。聲。威
と。さ。う。く。世。の。投。一。時。を。と。収。んと。する。は。い。や。さ。う。く。謀。や。う。

今其源といひ。その源。の。源。非。く。文。於。す。多。き。ま。は。ら。は。
や。う。せ。く。た。き。し。道。を。法。す。た。能。業。と。擢。し。文。と。稱。す。は。韓。歐
と。殿。し。自。ら。の。半。耳。と。執。く。一。世。人。や。ま。か。ん。に。の。は。い。や。ら。は。
禁。龍。世。貞。の。令。を。勢。勢。と。う。く。其。俗。を。傳。へ。る。も。

寸識人として伝

後教目ありて。然る事今せし。今。前。日。文章。此。多。あ。は。讀
る。き。書。所。不。教。わ。る。く。し。や。し。い。し。や。し。つ。き。精。益。た。き。書。は。い。
右。海。差。星。の。書。我。等。も。目。了。後。讀。ゆ。く。常。に。わ。の。し。し。物。を。
今。政。く。文章。此。多。あ。は。讀。ゆ。や。の。よ。ん。や。の。の。を。好。む。あ。く。い。や。取
多。く。し。の。は。い。や。し。い。く。は。は。ま。か。ん。に。の。は。い。や。ら。は。大。凡。書。を。多。讀。ま

しとていふは、漢書の卷万巻此書讀ゆるは、その書よそ
と精志す其人多く、漢書を讀むるは、漢書の意を
しるるは、寸鉄人を殺し、一寸鉄をくもく、漢書の意を
よする。長乃具多きこと、漢書の用は、漢書の用は、漢書の用は、
ひり東坡自り、西漢書よる、漢書の用は、漢書の用は、
官制兵機貸材の類一過ある、漢書の用は、漢書の用は、
造と侍作て事く、漢書の用は、漢書の用は、
教く讀書の良法と、漢書の用は、漢書の用は、
遷固の史と、漢書の用は、漢書の用は、
多文書一筋と、漢書の用は、漢書の用は、

一からいへば、漢書の用は、漢書の用は、
は法よきめ、漢書の用は、漢書の用は、
能わぬ、漢書の用は、漢書の用は、
同く、漢書の用は、漢書の用は、
字同く、漢書の用は、漢書の用は、
く、漢書の用は、漢書の用は、
其同、漢書の用は、漢書の用は、
よ、漢書の用は、漢書の用は、
事多、漢書の用は、漢書の用は、
哉、漢書の用は、漢書の用は、

漢書新注 卷之五

多く疑似するも、あまたなく、古人の詞以て例と、初らく考へ、後此
 とか、ほしく、凡そ、まじく、あらず。其の語類、字が、あつて、成
 語とや、其類、一から、ん。改作、係る、語あり。其、或は、かの、語あり
 下、人、此、性、の、係、る、語あり。本、此、措、る、係、る、語あり。古、詞、此
 語あり。比、喩、の、語あり。其、介、あ、け、り、之、り、ん、必、一、も、其、終、を、す
 之、り、中、を、あ、け、り、ひ、も、其、成、語、を、多、記、し、其、中、を、轉、化
 せ、り、其、の、ほ、ろ、雅、あり、て、信、あり、ん、其、あり、て、迂、あり、ん、其、あり、ん、
 鋪、叙、信、を、補、く、章、段、を、た、り、と、り、る、其、分、類、聚、の、事、あり、交
 互、錯、綜、の、所、あり、之、を、教、る、の、處、言、と、布、の、贈、り、き、と、り、る
 之、り、其、中、を、體、裁、鋪、叙、と、り、首、尾、を、た、り、と、り、之、起、結、あり

承接あり。轉折あり。收結あり。文路、其、抑、揚、頓、挫、條、貫、其、流、
 麗、ら、と、り、多、也。右、此、法、と、り、よ、め、凡、此、法、と、り、あ、り、ん、加、之
 歲月、其、功、を、た、り、ま、り、あ、り、け、り、自、得、する、下、あり、ん、兼、と、り、之、死
 る、よ、用、字、に、誤、り、以、造、語、と、り、や、り、鋪、叙、信、を、體、裁、と、り、
 言、と、り、多、く、送、と、り、補、する、の、助、け、と、り、る、よ、あり、ん、と、り、之、り、
 之、り、わ、り、其、類、と、り、や、り、あ、り、ん、と、り、同、の、事、と、り、其、法、
 實、此、其、ま、じ、と、り、也、其、文、雅、凡、流、と、り、道、を、す、り、の、や、り、
 之、り、異、ち、る、事、と、り、今、か、り、す、り、人、派、部、と、り、納、り、
 其、も、其、麗、なり、と、り、今、世、の、字、者、多、く、其、後、あり、て、實、あり、と
 之、り、其、文、辭、と、り、馳、騁、し、て、虚、名、を、求、め、り、と、り、之、り、
 之、り

師儒ある者、多し。痛く懲り、怒り、泣き、死す。況や道、文
雅、風流、の玩ぶこと。さやんや。能く、わい、率く、まゝに
さる。目之、逆さる。傳、わぬ。文章、わぬ。傳、わぬ。文、
辭、ハ、さ、ま、く、傳、わぬ。文章、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。
の文章ハ、傳、わぬ。威儀、文辭、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。今、
は、文辭、さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。鐘、鼓、と、も、
樂、さ、ま、く、傳、わぬ。孔子、禮、云、禮、云、玉、帛、云、乎、哉、樂、云、
樂、云、鐘、鼓、云、乎、哉、との、語。孔子、聖、云、と、も、似、く、文、と、の、音、と、
い、文辭、と、も、い、え、や、い、え、や、い、え、や、い、え、や、い、え、や、
言と身此文

能く、思、ふ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。言、は、連、續、を
多、く、さ、ま、く、傳、わぬ。傳、の、推、極、と、い、ふ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、
わぬ。文章、さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。言、語、文、辭、同、く、
多、く、後、世、文、字、此、辭、と、文、辭、と、い、ふ、を、起、す。文辭、は、傳、わぬ。文、字、
は、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。傳、は、
わぬ。文辭、と、の、作、事、は、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。古、の、傳、言、の、訓、一、
つ、も、孔、子、も、さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。樞、機、榮、辱、の、さ、ま、く、傳、
わぬ。君、中、一、と、い、ふ。知、く、一、と、い、ふ。南、宮、八、月、一、白、
主、と、三、復、一、と、い、ふ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、
わぬ。故、之、推、言、と、身、之、文、也、と、い、ひ、一、と、い、ふ。さ、ま、く、傳、わぬ。さ、ま、く、傳、

一、多岐といへば、世に儒者と好む人多く、^一辯氣せんきとて鄙信びしん
 とをさくふ事とて、或は太公と偽り、^二戲謔きぎくと好む、或は女家
 と稱し、^三貨利くわりと議し、其をさきくに委巷いけいの於て、奴隸ぬれい比類
 といへる、文雅風流安らむもの、^四詩と賦と文と著て
 一、琴と鼓こと箏そうと、^五古人の文雅風流といふもの、買櫃かうび
 還珠えんたまの類なり、^六多岐といふ文雅風流、古人の似ても、優ゆうとて、^七孫叔敖そんしやうあう
 とすき、^八古家山鹿こけやさんろくの似ても、^九世に其
 全流の事といふ、^十妙法すも、^{十一}きとて、^{十二}かきやう、^{十三}僻ひく
 やや、^{十四}全流をやうて、^{十五}けを、^{十六}く、^{十七}大切なる、^{十八}あや、^{十九}と

一、^一多岐といへば、世に儒者と好む人多く、^二辯氣せんきとて鄙信びしん
 とをさくふ事とて、^三或は太公と偽り、^四戲謔きぎくと好む、^五或は女家
 と稱し、^六貨利くわりと議し、其をさきくに委巷いけいの於て、^七奴隸ぬれい比類
 といへる、^八文雅風流安らむもの、^九詩と賦と文と著て
 一、^十琴と鼓こと箏そうと、^{十一}古人の文雅風流といふもの、^{十二}買櫃かうび
 還珠えんたまの類なり、^{十三}多岐といふ文雅風流、^{十四}古人の似ても、^{十五}優ゆう
 とて、^{十六}孫叔敖そんしやうあうとすき、^{十七}古家山鹿こけやさんろくの似ても、^{十八}世に其
 全流の事といふ、^{十九}妙法すも、^{二十}きとて、^{二十一}かきやう、^{二十二}僻ひく
 やや、^{二十三}全流をやうて、^{二十四}けを、^{二十五}く、^{二十六}大切なる、^{二十七}あや、^{二十八}と

命をいつくはるるを獲るはたのめすかきかきとて義を修むは
 唐の芥をもちぬすめりと其れは道があらふらんや命法はあむる者
 にくよまち切のものをや六常のあはれをさしはけり命法も
 わけく費す一用ひつららふもわかぬ事すしむまはそく命法
 命法もあつてはふもあつてはあつては南賈やとては知
 多るくし。ちやわかぬうき事なまむ。ひ日の書やとては
 唐は榊公程の家よりしは一婢あつて榊家として
 揚巨源の家ははるくふ。夫人病と買やとく自に牙僧や
 價の高下と裁せしとしく。俄に驚疾としく揚家と謝
 去る。其後人むひく。くも多る子。柳家あつてに終に内子

此月よりあつては物此價と同く事とまきうん。あつては主人
 牙僧と價と裁せしとしくと人なき。きもあつてにさくさく
 疾と得しとしくといひしとや。柳氏とせん。唐は世族や。家は
 いへまの。彰進の家と格別の事なわはけ。は六中唐
 人海中らけしき事なまむ。かか記に並けられたりし。
 我初を君子と稱せらるる者。中友とて凡俗厚素
 して。貨利をしめし。うらな義理を學べらる者や。あつては
 ものけく。廉恥の風もあつてはわんわん。あつては世
 はゆるく。凡俗なき。あつては者も命法のす
 かな常より後をさく。あつては俊も質直や。あつては驕る

其子若人といひ一者と云ふ。七女やまゝ其父家女の子あり
 いひやまゝといふもさういふ身とする事世のわが事やまゝ
 もはるゝ必ずいふかゝるけしははるわが事やまゝ。さういふ
 く我は得ぬ時基象戲セウギは務多のやまゝちひらき世の
 なること得ぬといふやまゝくまゝに。世の事いふあまかゝる
 かくらゝるゝとあはれいふ又らゝるゝきあまやまゝ買わぬ。ちま
 かゝるゝとあはれいふ。さういふ高買れとさういふさう者といふ
 くさういふさういふ文の事新中後後といひとさういふ
 人の事いふさういふ事いふさういふ事いふさういふ事いふ
 さういふ事いふ。今やまゝいふさういふ事いふさういふ事いふ
 といふ。今やまゝいふさういふ事いふさういふ事いふ。

病の唐名ときよあゆぐ一侍講の事

文廟へもやとけいれさく侍講。むらわぬ事やまゝさ
 ちまゝいふとちまゝいふけいれ。利欲臆病は又さういふ事
 いふ。今やまゝいふさういふ事いふさういふ事いふ。世儒
 のいふ文雅風流もさういふ事いふ。道の中程といふ事遠くは
 今やまゝいふさういふ事いふ。文辞は事とさういふ。聖賢の道は
 こゝろやまゝいふさういふ事いふ。月ころろさういふ事
 ちまゝいふさういふ事いふ。さういふ事いふ。後事を誤る事
 けいれさういふ事いふ。誰生厲階。至今為梗。この謂やまゝ。

一日の澤

家住_ハ駿臺_ノ下_ノ門_ノ臨_ル萬里流_ノ隱_ル雲_ノ平野_ノ樹_ノ棹_ノ雪_ノ遠_ル江_ノ舟_ノ
 吾_レ老_シ愧_ハ安道_ノ客_ノ來_リ皆_テ子_ノ飲_ム草堂_ノ偏_ニ閑_ニ寂_ニ喜_ニ共_ニ故_レ人_ノ遊_ル
とてよみ給ふ家ハ地多ク長流ニ俯一ノも門ニヤリヨシヨシ
 ずいゆら今此詩ノ門條萬里流と云はれりあまらく
 ねども云まはくきよく句勢わかや中と思ふかくすく
 韋_イ獲_ク列_ル野_ノ渡_ニ無_ク人_ノ舟_ノ自_ラ横_クといひ類_シくゆさハ詩_ノ々
 初_メ泥_クくらあらんやまのり古_ノの篤_ニ実_ニあらん人_ノ
 多_クハ詩_ノ々好_ムまねもねくもあらしそ程_ノすく詩_ノ中_ノや
 中_ノ少_クもあらん常_ニ此_ニ云_フ後_ノけくをちやたねやよるま
 中_ノ少_クもあらん者_ノも一_ノ首_ノ後_ノせしきとく年_ノ後_ノと投_ル人_ノ

冬_ノ天_ノ衝_ク雪_ノ到_リ君_ノ家_ノ此_ノ日_ノ倚_リ欄_ノ眺_ミ望_ミ踪_ノ兩_ノ岸_ノ水_ノ寒_ク如_ク夾_ク鏡_ノ
 千_ノ林_ノ樹_ノ合_シ似_ク開_ク卷_ノ
 又_レ印_ス

天_ノ從_テ雪_ノ後_ノ海_ノ衰_ニ新_ニ積_ル素_ノ凝_ル華_ノ先_ニ入_リ春_ノ清_ク白_ク由_テ來_リ誰_ノ相_ノ
 似_ク草_ノ堂_ノ高_ク臥_ス是_レ何_ノ人_ノ
 又_レ印_ス

欲_シ同_シ駿_ノ臺_ノ卧_ス雪_ノ時_ノ行_ク吟_ム招_ミ隱_ニ太_ノ冲_ノ詩_ノ古_ノ人_ノ高_ク義_ノ今_ノ何_ノ在_ル
 此_ノ地_ノ無_ク君_ノ誰_ノ與_ル期_ス
 又_レ印_ス

又_レ印_ス前_ノの翁_ノの詩_ノの韻_ノと和_ス
 高_ク堂_ノ半_ノ僻_ニ地_ノ積_ル雪_ノ暗_ク長_ク流_ノ歸_ル騎_ノ迷_ル來_ル路_ノ漁_ノ人_ノ滯_ル去_ル舟_ノ

行藏論古道。經濟問嘉猷。寄語世間客。誰知塵外遊。
 一處一處。迷了唱和。けり。かろ。酒酣。ふり。ね。な。今。す。あ
 く。あ。る。魚。ん。と。の。ま。ん。や。け。り。在。中。と。世。又。釣。々。散。樂。此
 誰。よ。ま。人。わ。り。ふ。ね。其。人。一。曲。と。す。め。く。六。有。上。の。筆。子。と。云
 影。の。月。と。く。ま。け。擔。改。の。志。ん。た。不。香。の。さ。と。る。折。け。く。や
 こ。ひ。か。け。れ。ど。ゆ。れ。あ。も。つ。あ。く。く。い。け。り。あ。打。き。く。お。り
 よ。く。あ。そ。思。ひ。あ。さ。ま。い。山。家。宮。中。の。第。几。と。ん。ま。く。よ。ま。定。坊
 や。く。礎。引。よ。移。く。

六出蒼理三徑平。忽聞白雪入歌聲。市中懸酒酒家近。
 堂上開書書帙清。玉樹玲瓏四隣合。銀沙的皜一川明。幽

棲何滅山陰興。莫厭留談到日傾。

前諸客よいひけり。律詩ハ文字此をちひやく。や。管。あ。あ。く
 け。ま。い。ま。ま。え。ゆ。く。も。相。魚。子。ら。と。相。魚。せ。ね。と。わ。り。又。一。字。の
 く。景。趣。と。す。す。け。と。さ。味。や。ま。と。わ。り。月。他。此。詩。中。に。ゆ。ら
 い。よ。ゆ。ら。も。ま。ば。く。く。あ。い。さ。と。し。も。び。結。才。一。句。此。平。字。が。あ
 り。ん。古。詩。し。て。三。徑。の。ま。さ。も。わ。り。ゆ。ら。の。ま。ゆ。と。埋。り。ゆ。ら。の
 才。二。句。此。久。字。字。眼。と。す。る。ゆ。法。是。此。篇。と。白。雪。此。曲。は。下。の。ゆ
 の。雪。此。新。ま。と。す。下。ま。ま。さ。趣。わ。り。あ。く。ゆ。才。又。向。此。合。字。中。に。ゆ。ら。く
 下。漢。の。樹。此。望。の。よ。や。ら。ゆ。ら。ゆ。才。亦。向。の。明。字。と。よ。ま。雪。と
 銀。沙。の。皜。一。川。的。皜。と。明。字。的。實。字。と。力。わ。り。ゆ。ら。の。ま。ま。い

澤々答揚（たのしみ）して。不報（ふはら）の報を受く。仁必（に必ず）も官（くわん）も職（しやく）も
 任（にん）す。その國（くに）を報ずる。仁ん也。
（たのしみ）

を物人と爲る

翁弱冠（おんじやくくわん）の了後（りょうご）ありんた。徳を積（つみ）く。叔向（しゆくかう）曰（い）ふ。毋（な）也。夫（これ）有（り）を物
 足以（た）移（うつ）人（ひと）。苟（な）非（か）徳義（とくぎ）。則（すな）必（ず）有（り）禍（わざ）と。しやんぞ。竦（すく）然（ぜん）と。く
 戒（かい）懼（く）の二（に）より多（おほ）き。を之（これ）に倣（な）ふ。亀鑑（かみかん）の名言（めいごん）と。しやんぞ。仁（に）は徳義（とくぎ）
 の移（うつ）入（い）と。伯夷（はくい）の清（せい）の如（ごと）く。柳下惠（りゆうげけい）の和（わ）の如（ごと）く。天地（てんち）の間の
 もゆるや。ありとなく。伯夷（はくい）の凡（たゞ）と。きく者（もの）を。頑（がん）史（し）も。廉（れん）史（し）も。懦（た）
 夫（これ）も志（し）と。立（た）つ。す。わが。柳下惠（りゆうげけい）の凡（たゞ）と。きく者（もの）を。頑（がん）史（し）も。廉（れん）史（し）も。寛
 茂（し）史（し）も。敦（あ）史（し）も。人と。爲（な）る。と。わが。凡（たゞ）也。其（その）極（ごく）と。も。舜（しん）の韶（せう）孔子（こうし）の

聖（せい）云（い）わ。の同（どう）姓（せい）た。を。あ。也。孔子（こうし）韶（せう）と。き。く。好（この）く。之（これ）月（つき）肉（にく）味（あじ）と。志（し）す。
 む。七十（しちじゅう）子（し）。顔（がん）氏（し）也。親（か）者（もの）一（ひと）と。志（し）す。又（また）人と。爲（な）る。の
 也（なり）。孔子（こうし）。忠（ちゆう）臣（しん）。孝（かう）子（し）。高（かう）潔（けつ）義（ぎ）烈（れつ）の行（な）は。人と。感（かん）
 慕（ぼ）せ。ゆ。わが。其（その）類（るい）や。わが。徳（とく）義（ぎ）の類（るい）と。ち。移（うつ）せ。し。
 也（なり）。小（こ）き。移（うつ）せ。し。一（ひと）と。爲（な）る。仁（に）は。禍（わざ）と。わが。ん。と。徳（とく）義（ぎ）
 の類（るい）と。わが。一（ひと）と。爲（な）る。仁（に）は。禍（わざ）と。わが。ん。と。徳（とく）義（ぎ）
 及（およ）ぶ。其（その）不（ふ）錦（きん）繡（しゆう）珠（しゆう）玉（ぎよく）。珍（ちん）禽（きん）奇（き）獸（じゆう）と。わが。人と。爲（な）る。と。わが。
 仁（に）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。
 仁（に）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。
 仁（に）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。
 仁（に）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。
 仁（に）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。必（必ず）身（み）と。わが。

て又爾爲くん。物も李杜摩手諾。詩韓歐東坡。文二玉
 の書のみ。きん。そも文在。此のゆへ。し。名一。種の人。と。ゆん
 よる。その。わ。あ。も。亦。外。あ。り。と。佳。義。の。お。な。わ。ん。あ。の。故
 よ。古。ま。も。詩。賦。と。な。り。文。章。と。な。り。此。人。多。く。つ。つ。と。投。し。介。ま。と
 す。く。ら。い。は。瘦。處。せ。り。と。や。り。や。実。の。色。き。り。と。云。洛。北。雄。偉
 と。あ。り。と。遊。ん。其。文。又。馳。り。と。雕。鏤。の。巧。と。街。や。り。と。身。よ
 お。り。く。何。の。差。の。あ。ら。ん。遠。は。お。り。く。や。あ。の。得。ら。あ。と。の。わ。ん。
 け。も。改。物。喪。志。と。し。り。し。の。好。書。と。の。最。り。と。ま。志
 う。唐。の。太。宗。此。明。と。と。く。遺。令。く。蘭。亭。の。か。と。推。え
 き。く。自。強。と。知。ら。ふ。と。後。人。よ。と。結。成。文。章。の。ま。と。ま。

このまよよとけ。詩賦文章文字。これ。も。ち。の。後。人。と。の。や。る。聲。色
 の。後。人。と。ち。ら。ひ。必。も。有。禍。と。い。ふ。事。あ。ら。ん。と。人。と。て。虚
 文。と。せ。実。用。と。志。し。む。道。は。実。用。と。い。ふ。べ。し。蘇。老。泉
 の。高。位。と。稀。す。る。志。と。な。り。文。章。と。稀。す。る。志。と。な。り。蘇。老。泉
 詩。賦。文。章。よ。お。け。れ。と。醫。者。の。毒。業。は。用。ら。れ。り。と。い。ふ。や。り。し。
 其。毒。と。く。て。治。病。よ。多。く。と。く。人。と。殺。す。と。い。ふ。と。い。ひ。れ。り。
 詩。懐。よ。多。く。と。文。章。と。辞。達。よ。多。く。と。い。ふ。と。い。ひ。れ。り。
 と。い。ふ。と。い。ふ。は。必。其。毒。と。中。ら。れ。り。と。い。ふ。と。詩。賦。文。章。も。一。種
 ず。し。今。不。逮。の。材。と。い。ふ。と。い。ふ。は。あ。ら。ん。と。せ。り。必。歳。月。と。費。し。て
 其。同。の。功。と。効。と。あ。ら。ん。韓。愈。の。文。と。そ。の。事。と。月。と。叙。る

文苑英華

四十七

とる心よ處若志行若遺儼乎其若思范乎其若迷と
とる翁のよあわく嘆息してゆく韓愈の為よあかきり
事と之ん嗚呼韓愈の材ととくんと道と事と事かくの
あかきり嗚呼韓愈の材ととくんと道と事と事かくの
文辭の何よりととく。已は実懐此致とんじ行よ非恒
情博遺俊の樂よりと曠し湖列は流さる一河を大觀よ
動さる一河しを甚根源と多のゆゆふ文章れあて譯
所くあかきりゆきとゆきとゆきと程朱此の文と好じ
とよまゆきとあかきりゆきと林絶せよゆきとあ
は辭の後人ゆきとあかきりゆきと程朱此の文と好じ

慮ら事の遠きと諸君よく思ひ知ると六諸君の六日觸泳
のおそひの陪後よ又為此刻戒と好ま六教よ樂く海せよと
中魚詩よと好樂き荒良士瞿々今日此謂やととと
樂よと好まゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと
ゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと
又よと好まゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと
ともよ好まゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと
暮下駿臺雪滿蹊漫々平白失東西一條正路依然在
知我同行醉不迷
かく月泳ゆきと好まゆきと好まゆきと好まゆきと

了る。若已の。夜路よする。ぬ。

年よる。う。

朔風感夜や。てり。日。も。例。き。舞。も。や。す。や。さ。う。一。花。
 舞。今。も。去。は。ら。く。や。う。後。日。を。結。せん。と。い。は。れ。り。や。あ。れ。今。の。心。を
 お。も。ひ。え。や。き。ま。ら。り。例。の。人。の。心。を。起。飛。と。同。じ。と。い。は。れ。り。に。
 翁。じ。ひ。く。の。の。後。と。年。の。苦。と。も。世。と。も。一。く。は。は。く
 了。や。い。そ。ち。き。る。多。く。市。朝。は。何。や。う。と。い。は。れ。り。草。堂。の。志。の。ある
 す。と。い。は。れ。り。蕭。々。と。環。堵。の。中。に。い。つ。と。か。病。は。外。に。日。と
 お。く。と。い。は。れ。り。八月。の。す。も。年。に。當。る。も。も。さ。へ。結。ら。れ。り。と。い。は。れ。り。
 遊。は。あ。し。し。る。ふ。た。う。さ。し。き。と。年。に。當。る。り。甲。斐。も

か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。

か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。
 か。む。む。の。く。さ。ん。や。く。身。老。年。猶。く。け。は。く。朽。果。じ。て。今
 文。悔。く。も。わ。さ。わ。お。れ。す。や。く。い。え。

多年此の教育を以て去るに如く。材質の庸下なる故を
中ずりし。其の文はつとあらざるよきは。後のおとろもさぐりく。
汗教の多なる事や。いふ事と。此の苦勞を去る。けつあること。に
返らん。汗の多かる事。おもしろき。よはる。けつ。後を相とも。勉強
して。日夜進益を。とらん。こと。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
や。こと。此の効を。得らん。こと。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
聞く。こと。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
て。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
し。こと。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
た。こと。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ

老たり此の作はとす。其の事や。いふ事。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
論して。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
た。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
も。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
す。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
て。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
顔曾。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
といふ。おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ
おもしろき。よはる。返らん。おもしろき。よはる。返らん。おもしろ



多しきも今やと纏く法君の祝規とすくめ、め生と終じ
 とすやあそひ侍る法君のおとまらふ。春秋よき材力よらぶ
解 解あはしめり月よきま進み、つとむ人よ及そらそまきゆも嚴
たの 月を待しよあはれ材力よ多きすらよあはれ。たす、かく汲くと
つとむ くる勉く不息よあはれく。く、慙くくく日と歩ぶ。且
ねひよひひきき 年老齡傾く後日と徳の懈と思ひく。い、悔もわが共言、
 中ひらき、即今病ふ身たよきい、さく、古話も、少壮不努力、
たか 力、老大徒傷悲、すくく。陶淵明も、盛年不重来、一日難
や 再晨、及時當勉勵、歲月不待人、と、片、古人もい、感懐と、同
ゆ すとや、そ、刀、く、し、と、等、此、詩、句、時、々、吟、詠、く、勇、進、の、志、

た 起すく、又世傳り宋文云此知此文よ。
ち 勿謂今日不學而有來日、勿謂今年不學而有來年、日
ゆ 月逝矣歲不我延、嗚呼、老矣、是誰之愆、

ひ 此文本集より、此、宋、子、家、刻、不、自、棄、の、文、也、此、於、中、宋、
子 子、此、少、他、又、と、後、人、此、擬、也、と、名、と、宋、子、の、任、す、ら、く、も、わ、ん、
ふ ぶ、より、彼、の、任、中、も、せ、ふ、言、第、二、て、意、も、明、白、と、も、お、せ、す、あ、え、
あ ち、く、自、警、む、ら、う、の、か、も、と、ま、く、も、常、に、勉、む、す、は、は、
た 陶侃、の、語、也、大禹、聖、人、乃、惜、寸、陰、至、於、衆、人、當、惜、分、陰、豈、
い 可、俟、遊、荒、廢、生、無、益、於、時、死、無、聞、於、後、是、自、棄、也、と、に、お、
た して、や、学、を、立、志、と、の、け、と、す、也、と、も、い、ふ、例、明、の、詩、も、曩、祖、

以来此をばし、とて思ひ給ふ。おのそ人よきま、とて志ありといふ
 きたり、時、意なく此を後守り、すむ、若くは、いと、た、果、つ、と、は
 情、ろ、と、す、す、ち、と、と、と、六、徳、君、も、け、陶、侃、の、節、と、と、く、自、心、
 激、昂、し、て、日、夜、節、勉、せ、る、事、也。但、ま、さ、つ、常、進、ま、よ、り、あ、あ、
 こ、ら、も、又、急、迫、が、わ、れ、ま、さ、り、は、つ、れ、ん、と、と、く、一、生、あ、く、と、離、ま、ぬ、事、
 中、く、六、急、迫、し、て、求、る、ま、さ、り、わ、れ、る、事、懈、惰、と、戒、く、常、は、
 聖、賢、其、書、に、優、遊、涵、泳、す、る、事、に、し、て、あ、の、ほ、く、進、を、お、か、
 ぬ、事、お、び、加、賀、ま、さ、り、時、士、族、の、中、に、紹、鷗、利、休、の、風、流、と、慕、
 へ、茶、湯、と、好、む、事、の、あ、ら、い、く、所、へ、の、改、め、時、道、中、ま、さ、り、ま、あ、り、て、
 旅、中、も、冷、ど、か、け、炭、と、お、さ、り、と、樂、ま、く、ん、な、り、と、回、り、の、人、た、ん、い、

ら、お、す、け、い、と、く、ら、中、ま、さ、り、ま、あ、り、て、其、人、の、中、
 此、月、ま、さ、り、一、生、の、あ、ら、い、く、事、也。ま、ま、一、生、此、月、か、ま、肉、を、ま、さ、
 け、茶、湯、と、す、る、事、の、あ、ら、い、く、事、也。ま、ま、あ、れ、と、行、を、異、
 せん、や、り、其、後、も、あ、ら、い、く、事、也。ま、ま、此、道、と、志、を、け、人、の、茶、湯、と、
 あ、の、ち、ら、あ、ら、い、く、事、也。ま、ま、ま、ま、須、臾、も、離、れ、ん、と、と、ま、
 一生の間の事、な、り、月、よ、わ、り、と、し、ら、り、と、や、り、お、あ、さ、き、ら、い、は、此、わ、り、
 可、あ、わ、り、ま、さ、り、ま、あ、り、。ま、ま、あ、ら、い、く、急、迫、し、く、と、と、あ、ら、い、く、
 や、り、て、有、得、と、ま、皮、膚、の、間、よ、て、ま、ら、ん、と、と、か、其、誠、と、齋、
 涙、味、に、飲、み、と、あ、ら、い、く、事、也。況、や、急、迫、が、わ、れ、ま、さ、り、ま、あ、り、
 ま、ま、日、に、此、時、よ、及、ぶ、事、に、て、や、り、と、倦、怠、す、る、事、も、あ、ら、い、く、事、也。

徳川家徳 巻之五 五三

を急しく。其間を勉勵と愛とん。多々急あし。迫切やる。彼
たさぬ。義理を涵泳と貴。後少く懈弛やる。戒む。迫切
あし。後弛やる。及。学者。進脩。此。導。あ。後。急。相。得。肯
と。さ。あ。を。急。く。程子の。志道。懇切。固。是。誠。意。若。道
切。不。中。理。則。反。為。不。誠。又。曰。人。謂。要。力。行。亦。只。是。淺。近。語。這。一
點。意。氣。能。得。幾。時。了。諸。君。程。子。此。云。と。今。爲。記。は。わ。こ。ん
と。し。も。き。う。し。

壬子試筆此詞附

日月送。移。白駒の。浮過。や。衰。病。日。侵。黄金此
術。如。了。十。六。大。馬。此。よ。も。ひ。色。あ。く。あ。り。も。思。え。さ。る。

五。つ。つ。老。此。彼。の。ま。ま。あ。と。と。七。十。あ。ま。り。又。は。の。壽。也
や。も。ぬ。わ。あ。ま。さ。ち。後。了。後。を。身。の。疾。疾。と。得。く。も。ま。わ。り
に。起。非。も。や。あ。め。ら。も。昔。此。董。生。と。ま。あ。や。た。あ。り。ひ。も。け
之。と。せ。養。此。園。と。瘞。や。り。も。か。ま。り。は。國。の。中。や。り。相。り
つ。た。も。當。此。音。よ。妙。了。其。意。と。し。ゆ。松。よ。の。松。梅。の。ま。ま。り
せ。り。と。ま。の。ま。わ。り。や。ん。わ。り。け。れ。た。は。わ。き。と。ま。あ。り。の。か。り
し。何。の。ま。ま。の。容。よ。年。と。神。の。甲。變。あ。り。も。程。子。此。送。よ。ま
る。ひ。鄒。魯。の。風。と。多。り。も。韓。歐。の。文。と。あ。り。も。耶。難。此
歩。と。ま。の。ま。わ。り。老。此。彼。を。對。あ。り。も。さ。る。も。多。の。年。月。城
神。く。世。の。ま。ま。り。か。ま。り。有。根。と。考。あ。り。も。盛。衰。業。枯。あ。り。も。

ゆく。かくやん等とあるはむねありし。

けしきもなほしてゆつとす。おもひの道とあるは。

此多記と云ふに辛亥也。一もあるは冬とあるは徳生と記す。

雑話、又書集と云ふ。一も一も此は、一も一も等と記す。結ぶ。

稿と脱しぬ。やと云ふ。一も一も延のとも。一も一も。結ぶ。

吾黨のやう。一も一も。後。一も一も。省。方。一も一も。助。一も一も。ん。

一も一も。一も一も。試。毫。此。一も一も。附。一も一も。後。一も一も。後。一も一も。

了。云窮。一も一も。の。一も一も。一も一も。け。一も一も。後。

享保壬子也。一も一も。冬十月鳩巢也。一も一も。

駿臺雜話卷五畢



寛延庚午十一月

東都書肆崇文堂

日本橋南三町目

前川六左衛門

鷺津氏